

中原区ぼうさい講演会を実施します！

武蔵小杉駅周辺には、高さ100m以上の高層マンションが12棟あり、約6,800世帯が居住しており、大規模な地震が発生した場合には、エレベーター停止による生活の困難や、備蓄物資の不足などによる大きな影響が予想されます。このような状況を受け、昨年12月に、高層マンションの住民の方を対象に、防災対策等に関するアンケート調査を実施しました。今回は、アンケートの監修を行った日本大学危機管理学部 ^{はだ やすのり} 秦 康範教授を講師に迎え、調査の結果を踏まえた**武蔵小杉駅周辺の特徴を踏まえた防災対策を中心に、在宅での避難の考え方、最新の防災知識等を学ぶ講演会を実施します**。当日は、併せて住民の方を交えたパネルディスカッションを実施します。

1 日時・会場

日時：令和7年2月26日（水）19時～20時30分（開場18時30分）

会場：川崎市総合自治会館 大会議室1・2

（川崎市中原区小杉町3丁目600番 コスギサードアヴェニュー4階）

2 申込方法等

会場参加：要事前申込・60名（抽選）

オンライン配信：要事前申込・定員無し

申し込まれた方に視聴方法を御案内します。

申込期間：令和7年2月4日（火）～2月21日（金）

申込フォーム：<https://logoform.jp/f/xzE3e>

参加費：無料



参加申込フォームはこちら

3 講演内容

イントロダクション：中原区役所が進める帰宅困難者対策の現状（中原区役所危機管理担当）

（1）（仮）高層マンションが立ち並ぶ武蔵小杉駅周辺の地震防災について

日本大学危機管理学部・秦 康範 教授（専門分野：地域防災・災害情報等）

（2）パネルディスカッション

秦康範教授、武蔵小杉駅周辺高層マンションの自主防災組織及び管理組合の方、武蔵小杉駅周辺にお住まいの方、中原区役所危機管理担当（予定）

問合せ先

川崎市中原区役所危機管理担当 青柳

電話 044-744-3158

「武蔵小杉駅周辺高層マンション住民の避難行動等に関する調査」

速報版

< 調査の目的 >

武蔵小杉駅周辺地域エリア防災計画の改定に向けて、武蔵小杉駅周辺の高層マンション住民が発災時に取る避難行動や備蓄に関する基礎データの収集・分析を行うことで、現行の武蔵小杉駅周辺エリア防災計画の課題を明確にすることを本業務の目的とする。

< 調査設計・回収結果 >

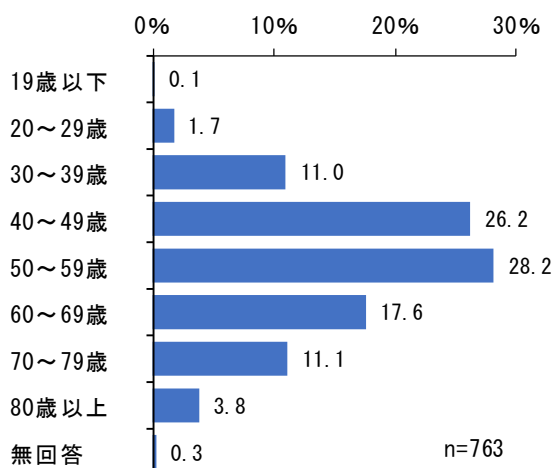
調 査 対 象	武蔵小杉駅周辺の高層マンションにお住まいの満 18 歳以上の世帯主 1,500 人
抽 出 方 法	無作為抽出法
実 施 方 法	郵送配布・郵送又は W E B 回収
実 施 期 間	令和 6 年 12 月
回 収 結 果	763 件 (50.9%)

< 概要版の見方 >

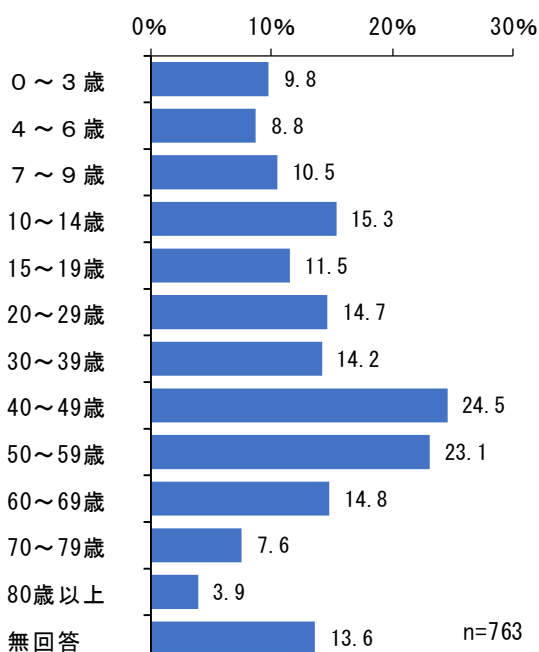
- ・ 図表中の「n」(number of case の略) は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。複数回答の設問では、すべての比率を合計すると 100.0%を超える。
- ・ 調査結果の比率は、小数第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、すべての比率を合計したときに 100.0%にならないなど、各項目の比率と、その合計が一致しないことがある。
- ・ 図や文章中の選択肢の表記は、場合によっては語句を一部簡略化して示しています。

<回答者の属性>

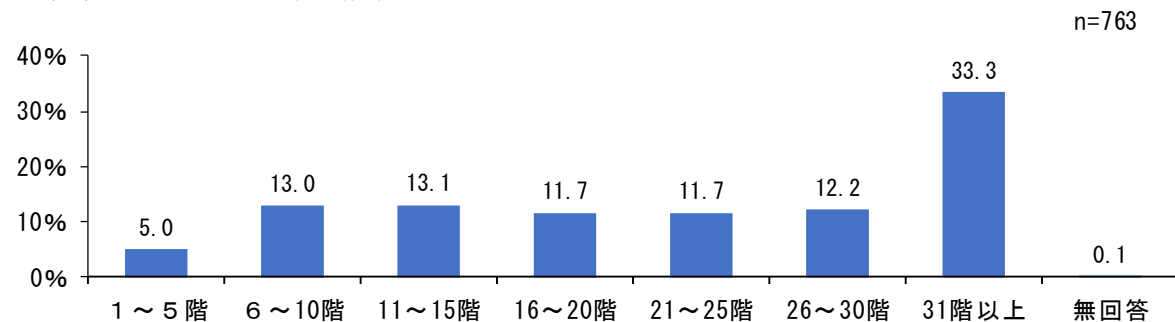
■ 回答者の年齢



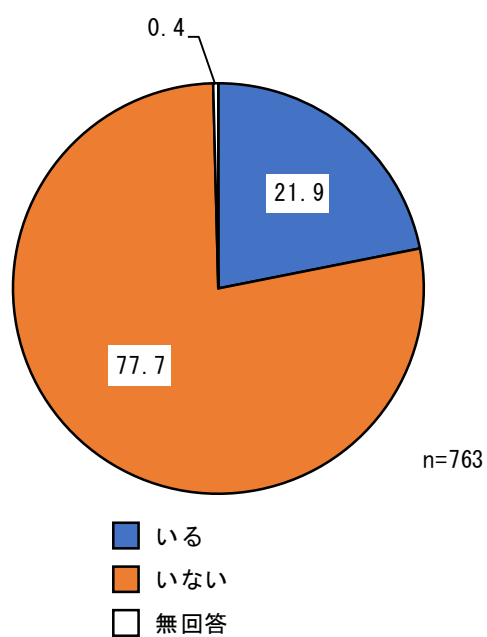
■ 同居者の年齢



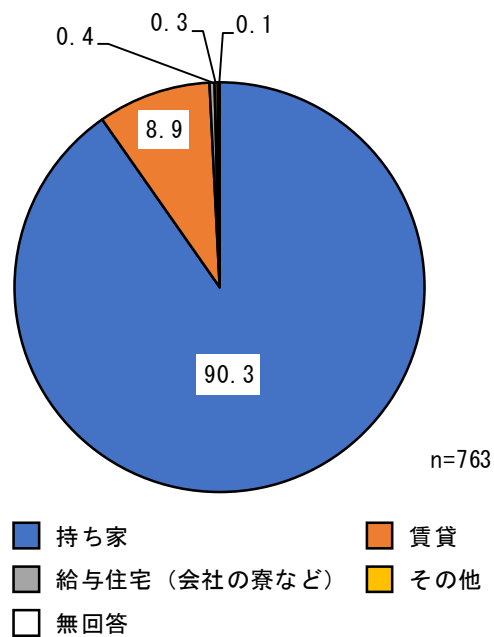
■ 高層マンションでの居住階数



■ 地震発生時の行動に不安がある方の有無

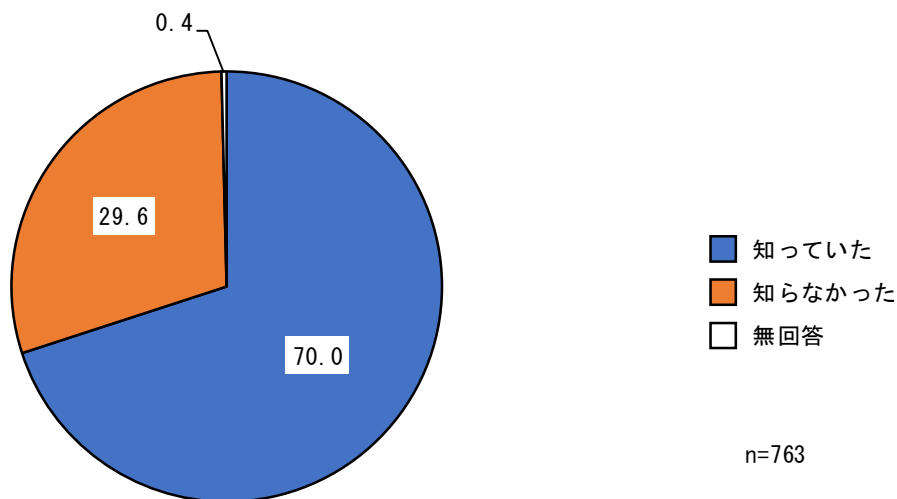


■ 居住形態



★「在宅での避難推奨」の認知度

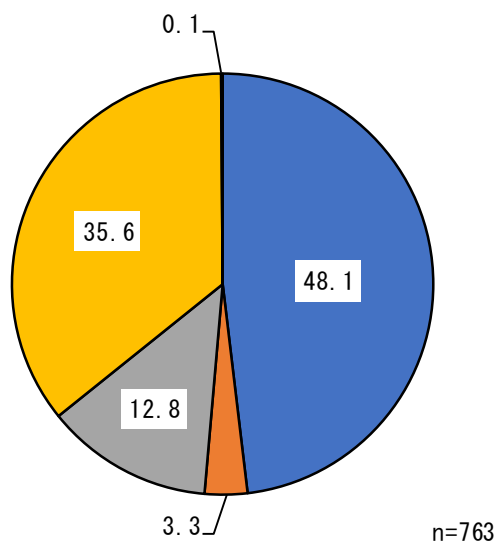
「在宅での避難推奨」の認知度は、「知っていた」が70.0%、「知らなかった」が29.6%となっています。



★自宅のある階までの階段での上り下り

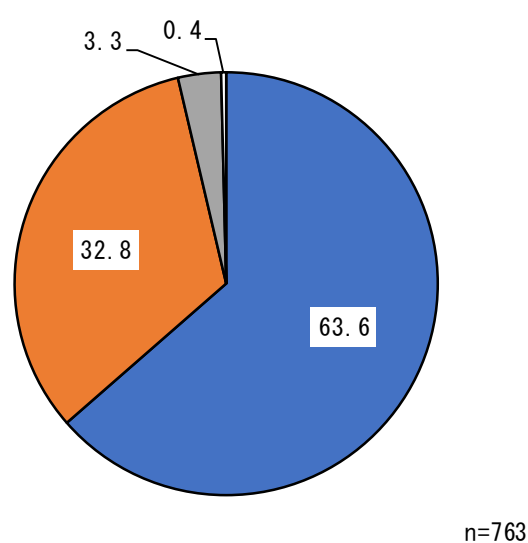
自宅のある階までの階段での上り下り経験は、「上り下り両方ある」が最も多く、48.1%となっています。震災時、自宅のある階まで荷物を持って階段の上り下りは、「できる」が最も多く、63.6%となっています。

■ 自宅のある階までの階段での上り下り経験



■ 上り下り両方ある ■ 上りのみある
■ 下りのみある ■ ない
■ 無回答

■ 震災時、荷物を持って階段の上り下り



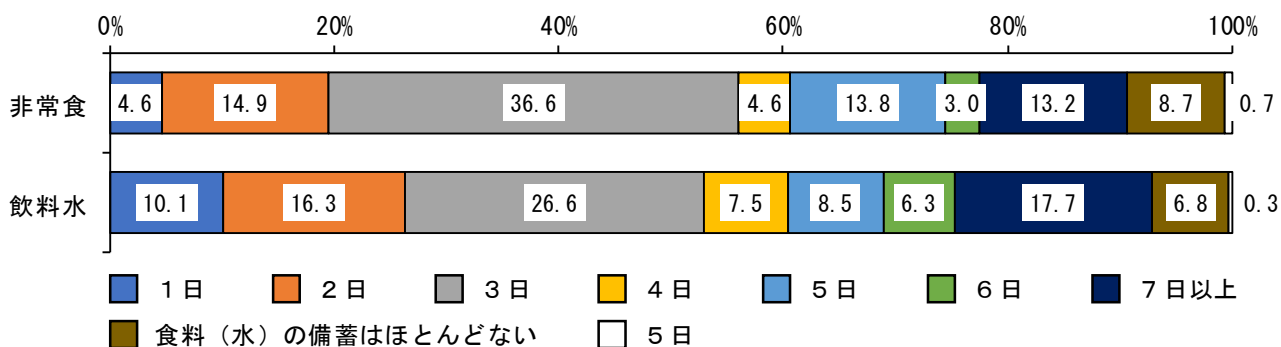
■ できる ■ できない
■ その他 ■ 無回答

★非常食、飲料水の備蓄量

非常食の備蓄量は、「3日」が最も多く、36.6%となっています。

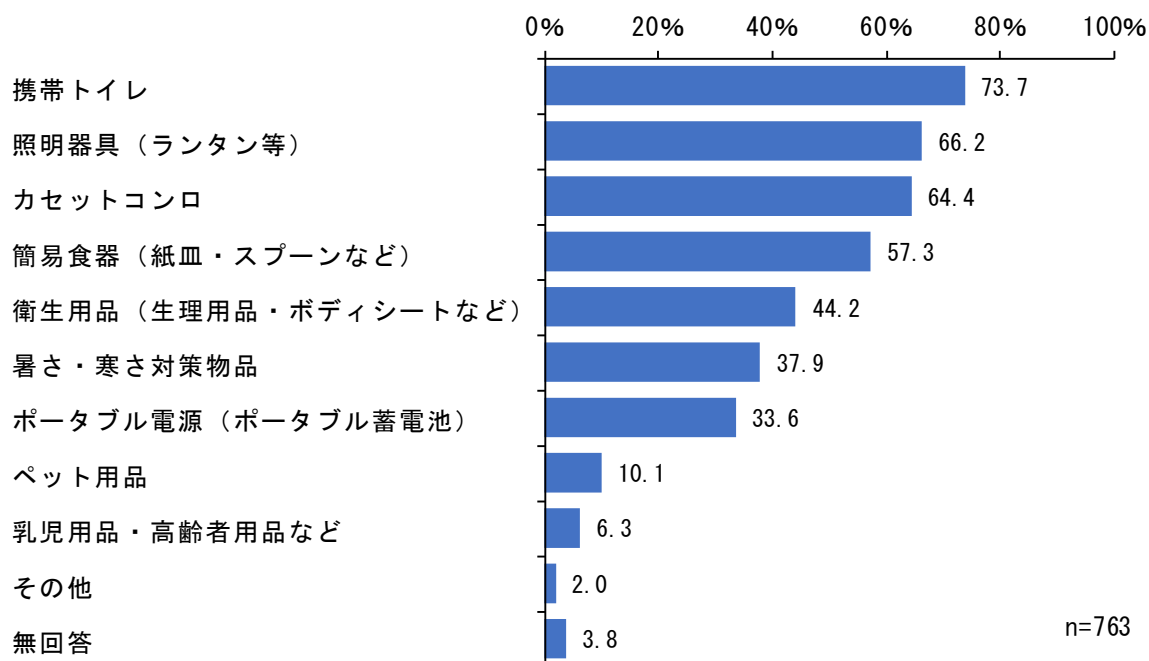
飲料水の備蓄量は、「3日」が最も多く、26.6%となっています。

n=763



★水・食料以外の備蓄

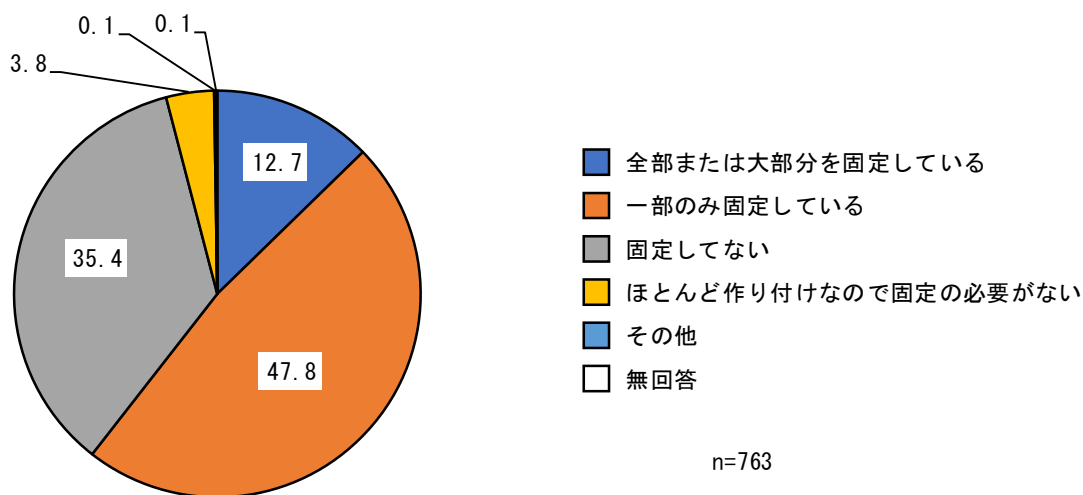
水・食料以外の備蓄は、「携帯トイレ」が73.7%で最も多く、次いで「照明器具（ランタン等）」が66.2%、「カセットコンロ」が64.4%となっています。



n=763

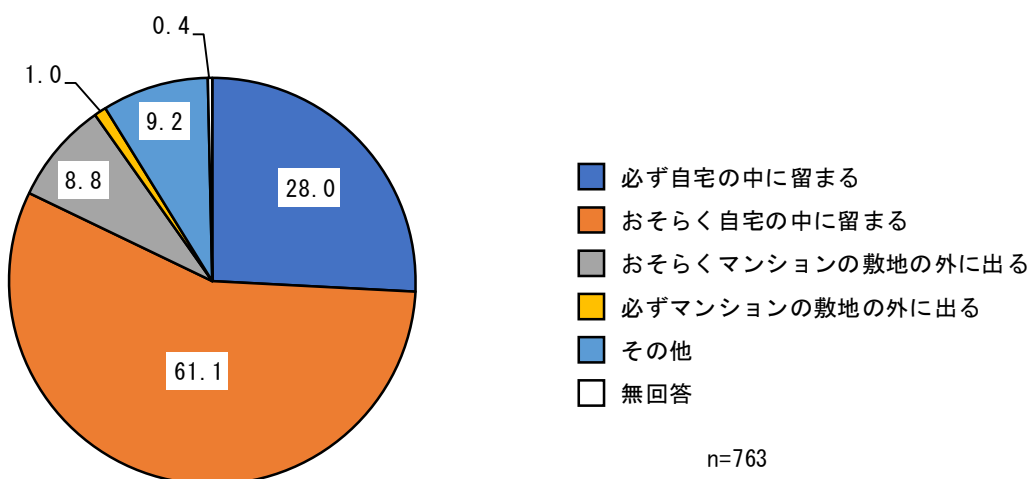
★家具や棚、家電類などの固定状態

家具や棚、家電類などの固定状態は、「一部のみ固定している」が最も多く、47.8%となっています。また、「一部のみ固定している」、「固定していない」を合わせると、83.2%となっています。



★地震発生から1時間後の行動

地震発生から1時間後の行動は、「おそらく自宅の中に留まる」が最も多く、61.1%となっています。



(以下の状況を想定した回答)

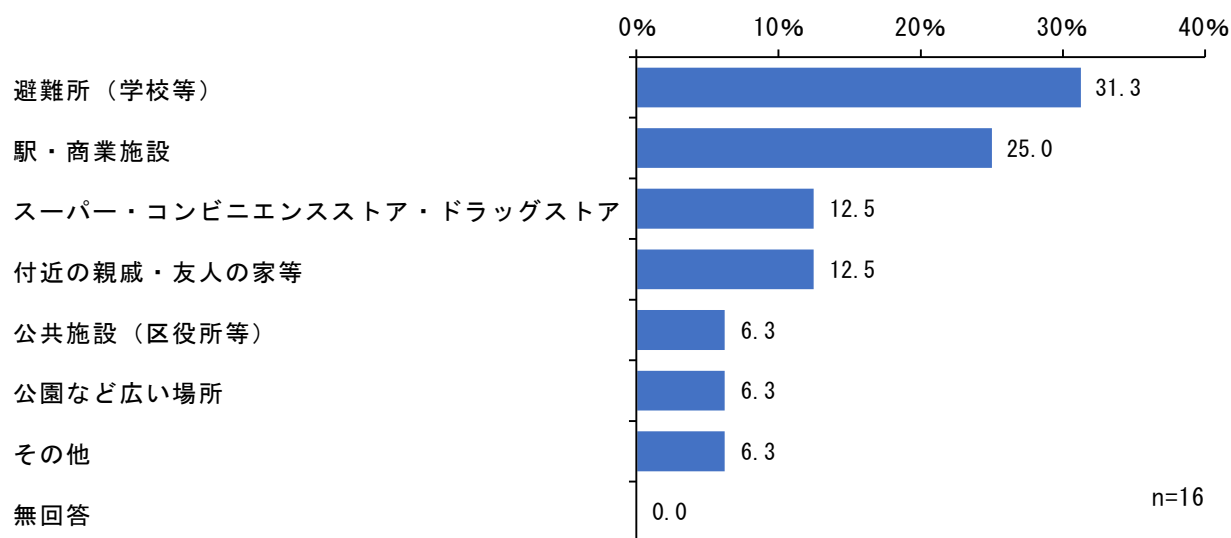
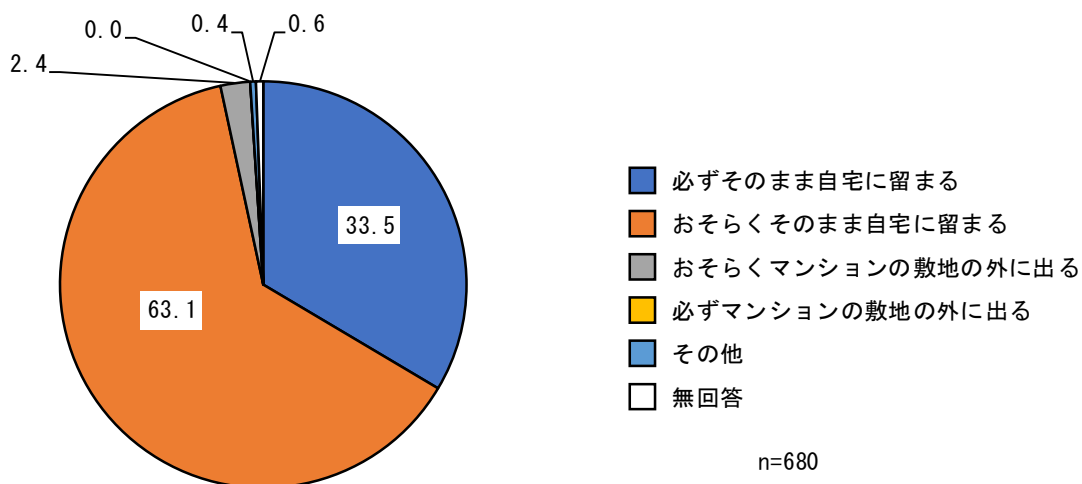
平日の19時ごろ、あなたが自宅にいる時に大きな地震が発生しました。余震が継続的に発生しており、高層階では、長周期地震動※により、長時間船に乗ったときのような揺れが続いています。あなたは緊急地震速報を聞いてとっさに身を守る行動をとり、幸いにもけがはありませんでしたが、揺れにより部屋の中はいたるところに物が散乱しています。他の家族は家の外に出ており、電話やインターネットがつかまらないため、状況がわかりません。

※長周期地震動とは、大きな地震で生じる、揺れが1往復するのにかかる時間が長い揺れの事で、免震構造のマンションであっても、大きく、長く揺れることがあります。この揺れにより、家具が転倒したり、大きく移動したりする危険があります。

★「自宅の中に留まる」人の想定される行動

地震発生から1時間後に「自宅の中に留まる」と回答した方の、3時間後の行動は、「おそらくそのまま自宅に留まる」が最も多く、63.1%となっています。

また、3時間後に「マンションの敷地の外に出る」と回答した方の、向かう先は、「避難所（学校等）」が最も多く、31.3%となっています。



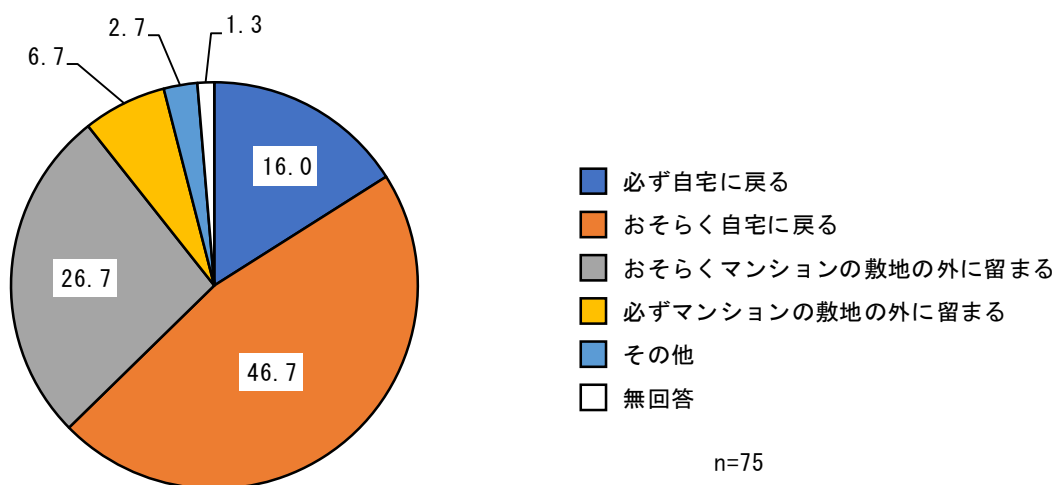
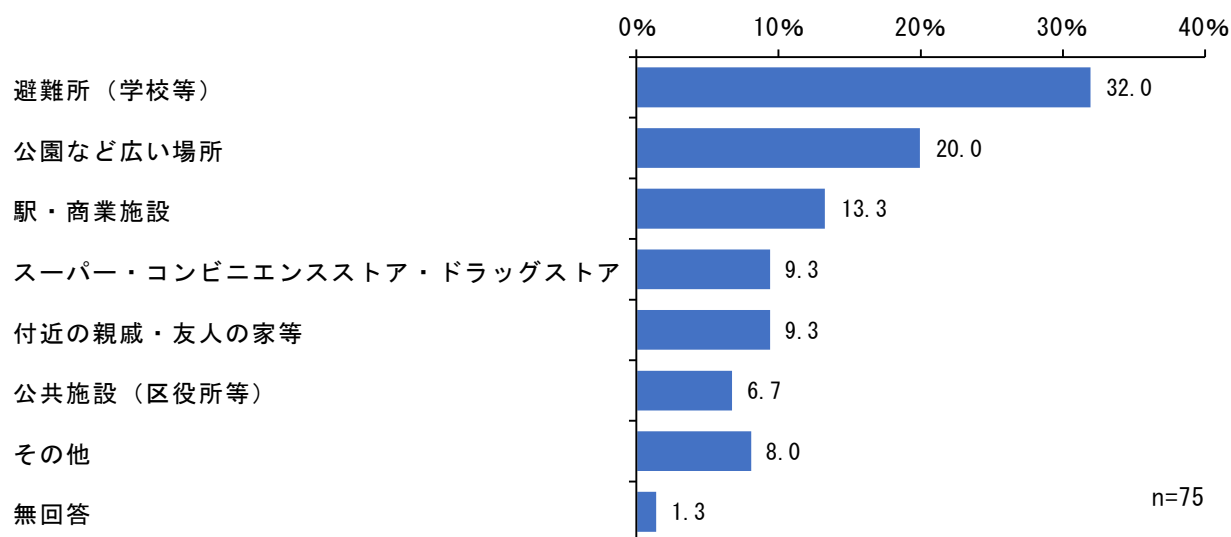
（以下の状況を想定した回答）

地震発生から3時間後、継続的に余震があり、エレベーターはいまだに停止しています。電話とインターネットは、不安定な状況ではあるものの外部との連絡はある程度可能になりましたが、学校の避難所はまだ開設されていません。夜になり、一夜をどこで明かすかを検討する必要も出てきました。

★「マンションの敷地の外に出る」人の想定される行動

地震発生から1時間後に「マンションの敷地の外に出る」と回答した方の、向かう先は、「避難所（学校等）」が最も多く、32.0%となっています。

また、一夜を明かす必要に迫られた場合、想定される行動は、「おそらく自宅に戻る」が最も多く、46.7%となっています。



（以下の状況を想定した回答）

地震発生から3時間後、継続的に余震があり、エレベーターはいまだに停止しています。電話とインターネットは、不安定な状況ではあるものの外部との連絡はある程度可能になりましたが、学校の避難所はまだ開設されていません。夜になり、一夜をどこで明かすかを検討する必要も出てきました。

「武蔵小杉駅周辺高層マンション住民の避難行動等に関する調査」速報版

【発行】 川崎市中原区役所危機管理担当
〒211-8570 川崎市中原区小杉町3丁目245番地
電話 044-744-3141 FAX 044-744-3346

【調査実施】 株式会社 物流科学研究所
〒330-0052 さいたま市浦和区本太2-2-36 SUNCREST 302
電話 048-887-3790